

1. 単元名 Enjoy Sushi (New Crown English Series2, Lesson 4)

2. 教科・単元で提案する「やりくりのたとえば」

学習指導要領では、外国語科の目標は次のように設定されている。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

英語学習者にとって、英語を用いて他国の人とコミュニケーションを図ることは、まさに「やりくり」の連続である。その場、そのとき、相手の文化的背景など様々な状況を考慮しながら、適切な英語表現を用いて、コミュニケーションをとる。特に会話場面では、その行為を一瞬で判断しなくてはならない。「ちょっと待ってください」ではコミュニケーションは成立しないのである。

中学1年生から英語を学習し始めた生徒たちにとって、どれだけその取り組みが定着し、確実なものとなっているかを確認するためには、アウトプット活動が特に重要である。生徒にとっては、じっくりと時間をかけ、自分の考えや表現を推敲し、語彙を確かめ表現するライティング活動を得意とする傾向があるが、自分の思っていることや考えていることを、その場で考え判断し、また相手の言葉を聞きながら、適切にそれに返す相互的なスピーキング活動は苦手とする傾向が見られる。

生徒にとって英語を学習する上での喜びは、英語が分かるだけでなく、自分の英語が相手に伝わり、英語を通して他者とコミュニケーションできることである。本単元での言語活動を通して、英語で自己表現できる楽しさを感じ、つなぎ言葉や相づちなどを用いながらやりくりし、会話を広げ、英語を用いてコミュニケーションを広がる楽しさを味わせたい。

### (1) 教師と教材

本単元では、すしの作り方を英語で紹介する長文を読む。他者に英語で説明する際、どのような表現をどのような順序で説明するか、しっかり考えなくてはならない。単なる英文読解で終わることなく、手順を説明する表現や相手にわかりやすく伝えるための工夫にも気づかせながら、読み込ませたい。また、単元末には会話を広げるトレーニングについての紹介もある。いくら英語学習を積み重ねても、その場に応じた表現や適切な語彙を用いた会話活動は、ライティングによるコミュニケーション活動以上に容易なものではない。ここでは、コミュニケーション活動において、発話者以上に受信者、つまり聞き手側の英語表現に注目させたい。相手が話した内容を聞き直すことで確認したり、つなぎ言葉や相づちを用いたりすることで、コミュニケーションを広げようとする態度を育成することを目的としたい。また自己表現活動は、生徒によっては困難を感じたり、苦手意識を持ったりしていることもある。Large Grammar 活動を活用しながら、生徒が間違いを恐れず表現しようとする環境を整えていきたい。

### (2) 子どもと教師

本学年の生徒は入学当初から「英語で人とつながる喜び」をテーマとした学習に取り組んできた。昨年秋には英国のニューステッドウッドスクールの生徒をホームステイで迎え入れ、授業も合同で行うことができた。またそのつながりからペンパルなどの手紙を通じた交流も行っている。またグリーティングカードづくりを題材とした授業では、実際に海外の有名人に手紙を出し、返事が返ってきた生徒もいる。英語でつながる相手を常に意識した活動を多く取り入れ、今後も積極的に表現活動に取

り組みたいと考えている。

### (3) 子どもと教材

本単元は、日本の食文化について関心を高める内容で構成されている。海外からの留学生の叔母が日本にやってくることになり、一緒に日本の飾り巻き寿司を作ろうとする場面である。昨年度英国の生徒と授業を行ったり、ペンパルなどの活動をしているなかで、本単元のように日本の食文化について英語で表現する方法を学ぶことは、生徒にとっても大変興味深いものである。また単元末では、会話活動として、相手の言ったことを確認したり、相づちを打ったりするトレーニングに焦点化した題材もある。そこでは、実際に会話をどう広げつなげていくか、生徒のやりくりに期待したい。

また文法面では、There is/are ～. を用いた表現や動名詞について学習する。特に動名詞については、動詞の現在分詞について、これまで学習した進行形と混乱する生徒も多くいる。様々な例文や実際に動名詞を用いた表現を多く活動に取り入れることで、定着を図っていききたい。

指導に当たっては、Large Grammar の手法を用いて、本文をチャンクで用いながら、徐々に自己表現へとつなげていききたい。また会話活動では、聞き手側のリアクションの重要性を伝え、トレーニングを重ねることで、「英語で会話を楽しむ」ことを感じさせたい。

## 4. 単元目標

- ・ There is/are～. の表現を用いて、あるものが存在することやその場所を示したりすることができる。
- ・ 動名詞の働きについて理解し、正しく用いて自己表現ができる。
- ・ 寿司の作り方の長文を通して、手順よく説明することができる英語表現を理解することができる。
- ・ 相手に言ったことを確認したりして、会話を広げることができる。
- ・ 日本の食文化について関心を高めることができる。

## 5. 学習計画 (全9時間)

- 第1時 There is/are～. の理解と表現活動・・・1時間
- 第2時 Part 1 の内容理解と日本の食文化についての理解・・・1時間
- 第3時 動名詞の理解と表現活動・・・1時間
- 第4時 Part2 の内容理解・・・1時間
- 第5時 USE-Read の内容理解・・・2時間
- 第6時 USE-Speak Skit の内容理解・・・1時間
- 第7時 USE-Speak 会話を広げるトレーニング・・・1時間 (本時)
- 第8時 Lesson4 のまとめ・・・1時間

## 6. 本時の学習について

### (1) 本時の目標

- 提示された話題について英語で適切に表現することができる。(表現の能力)
- 相手の言ったことを確認する表現やつなぎことば、相づちなどをやりくりしながら会話を広げることができる。(表現の能力)

### (2) 期待される生徒の様相

- A 既習の文法事項や様々な英語表現を用いて、有名人についてわかりやすく紹介することができる。
- B 相手の言葉を受けて、相づちや確認などでやりくりしながら会話を続けることができる。

学習活動	教師の支援・意図・評価
<p>1. 英語の歌</p> <p>2. アウトプット活動(ペア) ・チャンク表の確認</p> <p>・ <b>Expansion Activity</b>(個人・ペア) 1つのチャンクに自分のアイデアをつなぎ合わせて、新たな英文を作る活動</p>	<p>○映像も見ながら、英語学習の雰囲気をつくる</p> <p>○全体で発音の確認をしたあとで、時間を区切りながら取り組む ◇できるだけチャンク表を見ずに言わせたい</p> <p>○チャンク表リストの番号を提示し、そのチャンクに自分のアイデアをつなぎ合わせて表現する ◇まずはしっかり書かせ、その後ペア活動で表現させたい ◇相手の表現に対して、リアクションをしっかりと取らせるなどして、相互評価をさせたい ◆英文が作れない生徒は、教科書の本文を参考にしよう促す</p>
<p>3. コミュニケーション活動(ペア) ・会話を広げるトレーニング</p>	<p>※提示された話題について英語で適切に表現することができるか(表現の能力) ◇単なるスピーチ活動ではなく、相手の言葉を聞き、確認のために問い直したり、相づちを打つなど、会話を広げるためのトレーニングであることを全体でも確認する ◆身振り手振りなども用いながら、会話を続けようとする意欲を喚起させたい ※相手の言ったことを確認する表現やつなぎことば、相づちなどをやりくりしながら会話を広げることができるか(表現の能力)</p>
<p>4. まとめ ・本時の活動の振り返り</p>	<p>○相手の言葉を聞いて、次回使ってみたい表現や参考になるフレーズなどがあれば書き留めておく。</p>